

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】令和 5 年 10 月 2 日(2023.10.2)

【国際公開番号】WO2022/201671

【出願番号】特願 2023-508621(P2023-508621)

【国際特許分類】

F 1 6 F 9/48(2006.01)

F 1 6 F 9/32(2006.01)

【F I】

F 1 6 F 9/48

F 1 6 F 9/32 J

10

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 7 月 10 日(2023.7.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

作動流体が封入された第 1 シリンダと、

前記第 1 シリンダ内に摺動可能に嵌装され、該第 1 シリンダ内をロッド側室とボトム側室に区画する第 1 ピストンと、

前記第 1 ピストンに連結されるピストンロッドと、

前記ボトム側室に設けられ、縮み行程時に減衰力を発生させる第 1 バルブを有する第 1 バルブ部材と、

前記第 1 シリンダの外周側に設けられる第 2 シリンダと、

前記第 1 シリンダと前記第 2 シリンダとの間に形成されるリザーバ室と、

30

前記第 1 ピストンが前記第 1 シリンダ内の前記第 1 バルブ部材側に向けて移動する前記ピストンロッドの縮み行程のときに作動するストッパ機構と、

を有し、

前記ストッパ機構は、

前記第 1 ピストンと前記第 1 バルブ部材との間に設けられる第 2 バルブ部材と、

前記第 1 バルブ部材と前記第 2 バルブ部材の間に形成される中間室と、

前記第 1 ピストンと共に前記第 1 シリンダに対し移動する第 1 調整部材と、

前記第 1 調整部材との相対位置により、前記ボトム側室と前記中間室とを繋ぐバイパス流路が開閉される第 2 調整部材と、

前記第 2 バルブ部材に設けられ縮み行程時に減衰力を発生する第 2 バルブと、を有し、

40

前記第 1 ピストンが第 1 ストローク範囲にある間は、前記第 1 バルブにより第 1 減衰力を発生させ、

前記第 1 ピストンが前記第 1 ストローク範囲を超えて前記第 2 バルブ部材側に位置する第 2 ストローク範囲の間は、前記第 2 バルブにより前記第 1 減衰力よりも高い第 2 減衰力を発生させる緩衝器であって、

前記第 2 調整部材は、前記第 1 シリンダに形成される貫通孔であって、該貫通孔は周方向に複数または軸方向にずらして複数設けられている、
緩衝器。

【請求項 2】

前記第 1 バルブと前記第 2 バルブは直列に接続されている請求項 1 に記載の緩衝器。

50

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明の一実施形態は、作動流体が封入された第１シリンダと、前記第１シリンダ内に摺動可能に嵌装され、該第１シリンダ内をロッド側室とボトム側室に区画する第１ピストンと、前記第１ピストンに連結されるピストンロッドと、前記ボトム側室に設けられ、縮み行程時に減衰力を発生させる第１バルブを有する第１バルブ部材と、前記第１シリンダの外周側に設けられる第２シリンダと、前記第１シリンダと前記第２シリンダとの間に形成されるリザーバ室と、前記第１ピストンが前記第１シリンダ内の前記第１バルブ部材側に向けて移動する前記ピストンロッドの縮み行程のときに作動するストッパ機構と、を有し、前記ストッパ機構は、前記第１ピストンと前記第１バルブ部材との間に設けられる第２バルブ部材と、前記第１バルブ部材と前記第２バルブ部材の間に形成される中間室と、前記第１ピストンと共に前記第１シリンダに対し移動する第１調整部材と、前記第１調整部材との相対位置により、前記ボトム側室と前記中間室とを繋ぐバイパス流路が開閉される第２調整部材と、前記第２バルブ部材に設けられ縮み行程時に減衰力を発生する第２バルブと、を有し、前記第１ピストンが第１ストローク範囲にある間は、前記第１バルブにより第１減衰力を発生させ、前記第１ピストンが前記第１ストローク範囲を超えて前記第２バルブ部材側に位置する第２ストローク範囲の間は、前記第２バルブにより前記第１減衰力よりも高い第２減衰力を発生させる緩衝器であって、前記第２調整部材は、前記第１シリンダに形成される貫通孔であって、該貫通孔は周方向に複数または軸方向にずらして複数設けられている。

10

20

30

40

50